



# 学校だより

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
- 「徳」 自分を大切に、互いの違いを認め合える子を育てます。
- 「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
- 「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
- 「関」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和5年11月30日  
横浜市立菅田の丘小学校  
校長 若山 京子  
12月号  
[師走 December]

## 関わり合いを楽しむ

校長 若山 京子



とある日曜日、喪中はがきを印刷していたところ弔事用の切手が足りなくなっていました。郵便局に行けば手に入るのですが、近所のコンビニに立ち寄った際、きっと無いだろうなと思いながらも、レジの女性に「64円切手の絵柄はいくつか種類がありますか。」と尋ねてみました。すると女性は「お待ちください。」と腰をかがめてレジの引き出しの奥を確かめてくれました。

ちょうどその時、小学校3・4年生くらいの男の子がコンビニ店内に入ってきました。男の子は飲料コーナーにまっすぐ進み、商品を手にしたらレジカウンターのあるセルフレジのところにやってきました。商品のバーコードをレジ端末にかざしてスマホの電子マネーでピッと決済し、あっという間に店を出て行きました。

キャップ帽をかぶった男の子の手際の良さに見とれていると、レジの女性が「うーん。切手はこの種類しかないですね。」と質問に答えてくれました。私はやはりそうか、と探させてしまったことに申し訳なく思いつつも切手を購入しないで立ち去ろうとしました。すると、店の出口に向かう私にレジの女性が「すみません。またお願いしますね。」と言いながら笑顔でぺこりと頭を下げたのです。切手は購入できなかったのですが、学生アルバイトらしきレジの女性の対応に私はなんだか温かい気持ちになりました。

近年、通販や置き配、セルフレジ、自動改札など、世の中はどんどん便利になっています。その分、人と関わる機会がぐんと減ったように感じます。自分自身を振り返っても、休みの日はともすると誰とも会話をしないで一日を過ごすようなことがあります。けれども学校生活においては、人と関わり合うことや相手とやり取りをする場面がとても多く、意図的にそのような活動を計画し取り組むことがあります。今月は特に校内外で学年の交流、学校間の交流がありました。4年生は区の音楽会に出演する3年生のために、学年合唱やリコーダー演奏を発表しました。発表にのぞむ姿勢や歌い方など、4年生からのアドバイスは3年生にとって立派なお手本となりました。それを糧に3年生は音楽会で素晴らしい歌声を公会堂に響かせ、区内の学校の子ども達と歌声やリコーダー演奏を聴き合いました。また1・2年生の活動では、2年生が学習で作ったおもちゃで1年生が楽しく遊びました。保育園との交流「みんななかよしハッピー会」では、1年生が2年生との交流で学んだことをもとに園の子ども達をもてなしていました。たくさんのお店屋さんやゲームコーナーを作り「いらっしやいませ。」と呼びかけたり、遊び方を丁寧に説明したりしました。園の子ども達を安心させる笑顔、やさしいトーンで声をかける1年生の姿に頼もしさと4月からの成長を感じました。

これからの世の中は、あらゆることが自動でできるようになり、時間を短縮できたり手間を省けたりする利点があるかもしれません。けれども19世紀オーストリア出身の精神科医であり心理学者であるアルフレッド・アドラーは「人は関係性の中でこそ成長できる」という考え方を示しています。子ども達は、人と関わり合い相手とやり取りをする中で、相手の行動や表情を見て相手の気持ちに気づくことができるようになったり、優しく励まされて互いを思いやる温かい気持ちが育まれたりするのだと思います。嫌な思いをした場合には、どうしたら気持ちよく過ごすことができるのか、時には周りの大人達のサポートを受けながら関わり合いの中で子ども達は学んでいくのだと思います。子ども達には人と関わり合うことの楽しさを感じる経験をたくさん重ね、便利さがどんどん追求される未来でも人との関りを大切に生きてほしいと感じています。



先のコンビニのキャップ帽の男の子も、きっと学校や様々な場面ではたくさんの人や友達と関わり合い、人の温かさに触れているのだろうな、と思いを巡らせた日曜日でした。

さて2023年も残すところ一ヶ月となりました。保護者、地域の皆様には、一年間大変お世話になりました。新しい年も本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきますようどうぞよろしくお願いたします。